

薬師寺



撮影：Nacasa & Partners Inc.

- ・管長巻頭法話 丙申歳を迎えて思うこと
- ・特集 薬師寺 春の特別公開

震災孤児支援にたずさわって

NPO法人 JETTOみやぎ 理事

茶匠 矢部園 代表取締役

矢部 亨



平成二十三年三月十一日 午後二時
四十六分。

宮城県沖を震源としたマグニチュード
9.0という、巨大地震が発生、そして、と
てつもなく大きな津波が一瞬にして宮城
県東部の街をのみこみ、建物を破壊し、
多くの尊い生命を奪いました。未曾有の
惨劇と表現してもまだまだ言葉足らずの

ような世界が目の前に広がりました。

この東日本大震災によりたくさんの子
どもたちが、住むところはもちろん、大
切な家族や友人を亡くしました。

JETTO（ジェット）みやぎの始まり
は、仙台市に本社を置く葬儀社 清月記
が仮埋葬を行っている時のある出来事が
きっかけです。

震災で火葬場も被害を受け、また、犠牲となった方の数もあまりにも多く、火葬が難しい状況にありました。そのため、一時的に土葬にすると、「仮埋葬」に踏み切らざるを得ない自治体があり、清月記はその任を受けておりました。

ある日、幼い女の子が祖父母に手を引かれてやってきました。埋葬する二つの棺には、その子の両親が納められています。

「お母さんはどこにいったの？」
両親を亡くし、両親が眠る棺が目の前

にあるという現実をまだ理解できない幼い子。その子の手をしっかりと握りしめ、返す言葉に詰まり、立ち尽くす祖母。

その後も同じような光景を何度も目にしました。誰一人頼る人のいない子どももいます。

「この子たちに、何か出来る事はないか？」

清月記の社員の中から声上がり、同社代表の菅原裕典を発起人に、有志を募り、平成二十三年五月一日に、震災孤児の「生命（いのち）の物語」を支援する

プロジェクトとして「JETOみやぎ」はスタートしました。

団体名の「JETO」は未来に向かう飛行機に乗った子どもたちが、それぞれの「生命（いのち）の物語」に向かって健全に飛び立つことを願い、英語句「For Japan Earthquake & Tsunami Orphans in Miyagi（東日本震災とその津波による宮城県の震災孤児に支援の手を）」の頭文字から名付けました。

震災によって身寄りを亡くした子どもたちは宮城・岩手・福島の三県を合わせると二四一人になります。その約半数が

宮城県の子どもたちで、一二六人の子どもが震災孤児となりました。

私たちは、宮城県内の孤児の支援に絞り、その身元を調べました。しかし、すぐに個人情報に壁にあたり、情報を得ることはできませんでした。そこで、教育委員会の許可を得て、自力で県内の小・中・高すべての学校に「JETOみやぎ」のポスターを貼っていききました。

結果として八十七名のお子様や保護者の方から申告をいただきました。

平成二十四年二月、私たちは、非営利活動法人として認可を得て、この八十七

名の子どもたちが二十歳になるまで物心
両面からの支援活動を支えていくことと
しました。そして現在、二十二名が二十
歳を迎え、支援対象者は六十五名になり
ます。その支援活動はすべて皆さまから
のご寄付・賛助によって成り立っており
ます。

薬師寺様は震災直後から被災した東北
各地でお写経会の開催や、追悼巡礼をさ
れていたことで、早くから私たちの活動
に関心をお持ちいただき、手をさしのべ
てくださいました。

そして、平成二十六年十一月九日、薬

師寺様をはじめ、東大寺様、興福寺様、
唐招提寺様、西大寺様、法隆寺様の南都
六大寺からなる「南都隣山会」様よりと
てもとても大きなご寄付を賜りました。

(三十四頁写真)

皆さまからいただいたご浄財は、①
「生活教育支援金」の給付、②就学・留
学の相談、③心のケアサポート活動に大
切に使わせていただいております。

生活教育支援金は、第一期から第三期
までは十万円、前期(第四期)は十五万
円をすべてのお子様にご給付させていただ
きました。



平成26年11月9日 JETOみやぎへ南都六大寺より寄付を致しました。
(写真は株式会社清月記 代表取締役 菅原裕典様と東大寺別当 筒井寛照師)

給付に併せて、学習支援アンケートを毎年実施し、ご要望に応じてサマースクールも実施しております。

また、お子様のご自宅に伺い、保護者とお子様にも面談を行う訪問ヒアリングも行っております。

当初、大切な家族を失ったショックから、接し方、心の距離感に悩み、環境の変化による不安が保護者、お子様の双方にあったのは事実だと思います。しかし、五年という歳月を経て「家族」として支え合いながら暮らしている様子が面談とすることで感じとれます。



サマースクールの様子

将来の夢についてしっかりと語る事ができるお子様も多くいます。共通しているのは「支援してくれている人への感謝として、将来こうありたい」という意思が進路を明確に表現できているということです。皆様の支援は確実に子どもたちの心に届いていると実感しています。

一方で新たな問題も見えてきました。それは、保護者のほとんどが祖父母だということです。自身の子育て期と環境がまるで異なる現在の学習環境から進路や勉強の相談に応えられないという悩み、そして何より、自身の加齢による「被

介護者となる恐れ」や「死」。保護者となったことで、近い将来、逆に子どもたちに大きな負担を負わせてしまうのではという不安が保護者の中に芽生えていきます。

今後は将来のプラン設計のサポートが重要な課題だと感じております。それには、震災孤児・保護者・支援者・事務局にとつて、それぞれ「顔の見えるサポート」を継続し、コミュニケーションを常に取り続けるることが大切だと感じていきます。

その一環として、私たちは、平成二十六年八月、内閣府の厳しい規定をクリア

し、認定NPO法人になりました。当時全国四九、〇〇〇件のNPO法人で、認定NPO法人は〇・七%弱の約二九〇件しかありませんでした。国から認められた団体として支援者・被支援者に利益ある団体へ前進しました。震災を風化させないためにも、今後とも皆様からの末永いご支援とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

薬師寺ではJETOみやぎと共に孤児支援活動を行うと同時に、希望があれば僧侶となるための道を開くという活動も進めております。

合掌